

第7回
公共施設のあり方検討委員会
—明日のいなざわが輝くために—



平成24年11月15日
稲 沢 市



0

本日の議題



1

本日の議題

- ① 社会的条件の整理
- ② 改革の目玉
- ③ 小中学校の見直し案
- ④ スポーツ施設の見直し案
- ⑤ 消防施設の見直し案



2

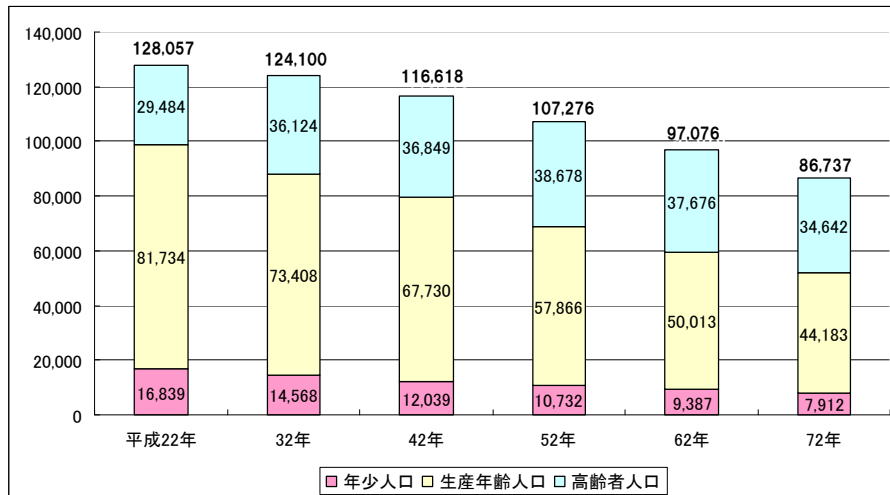
社会的条件 の整理



3

国の将来人口推計

(単位:千人)



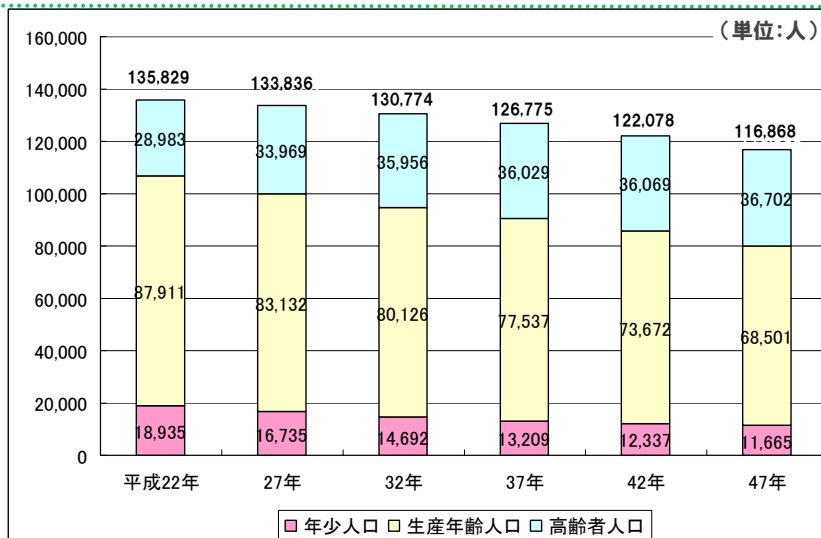
※国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」



4

市の将来人口推計

(単位:人)

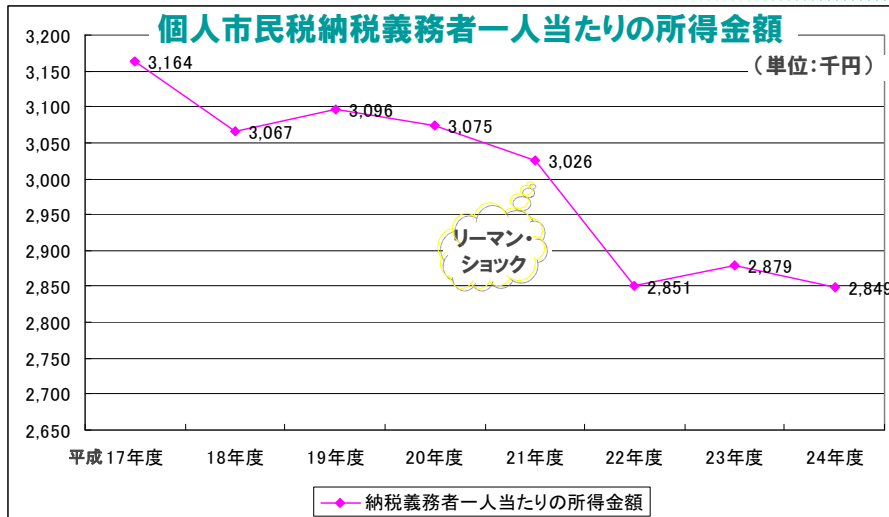


※国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」



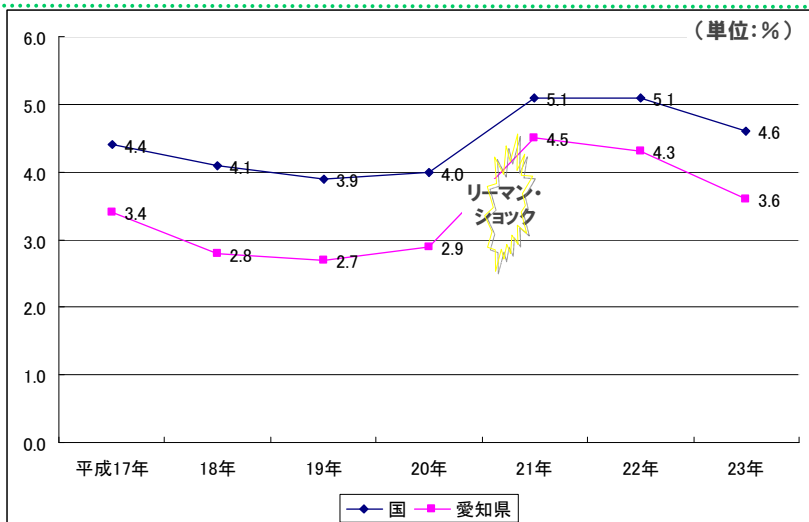
5

年間所得額



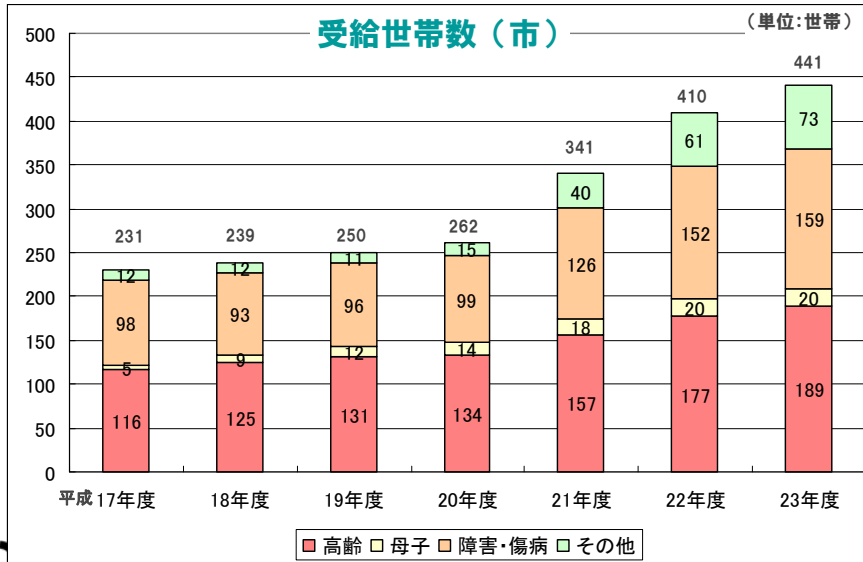
※給与所得が300万円の場合、給与収入は概ね440万円。

完全失業率



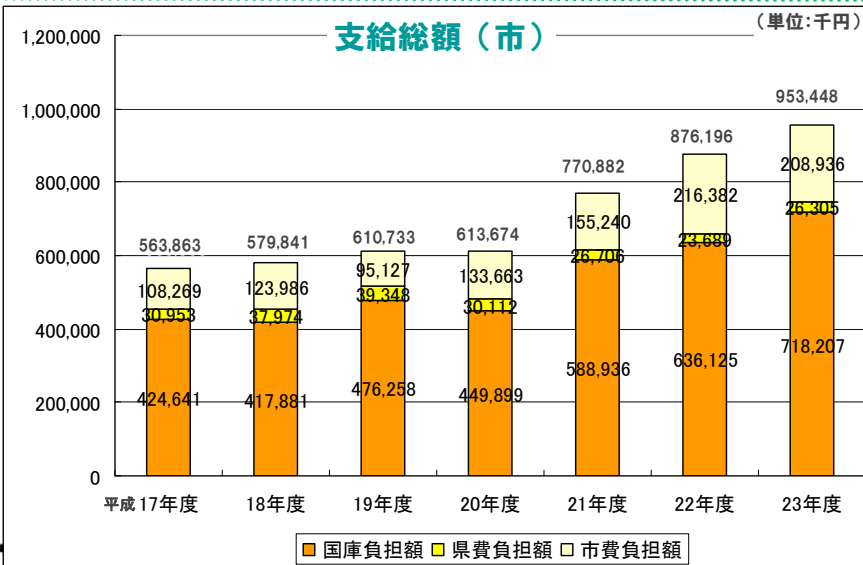
※完全失業率とは 15歳以上の働く意欲のある人(労働力人口)のうち、職がなく求職活動をしている人の割合をいう。

生活保護の状況（1）



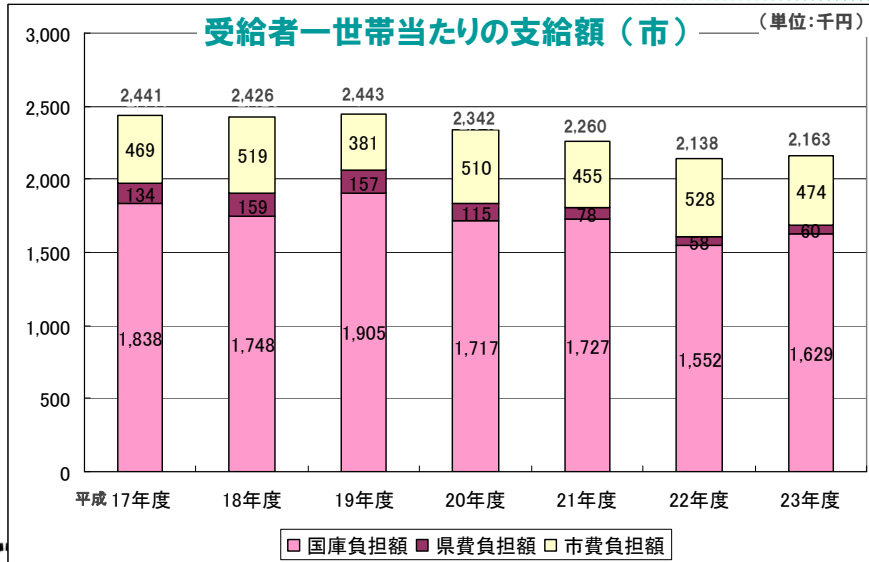
8

生活保護の状況（2）



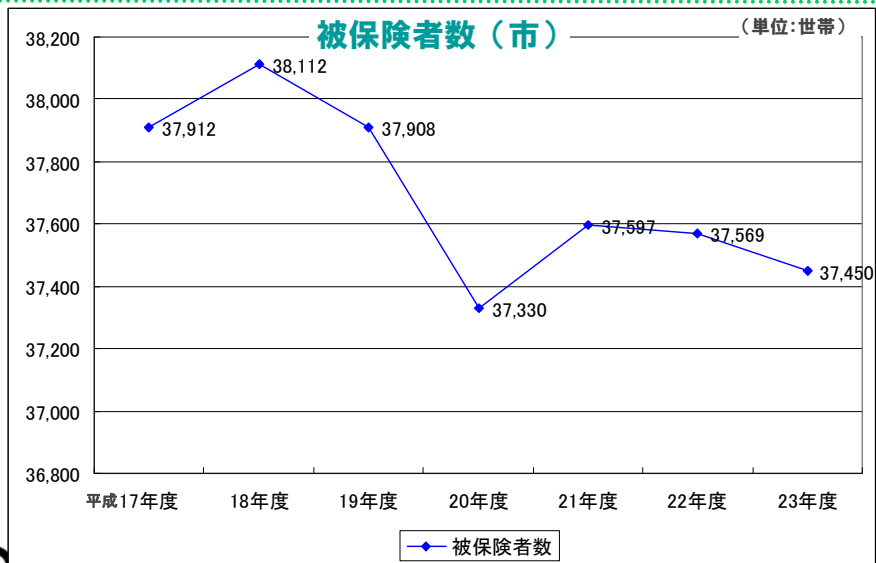
9

生活保護の状況（3）



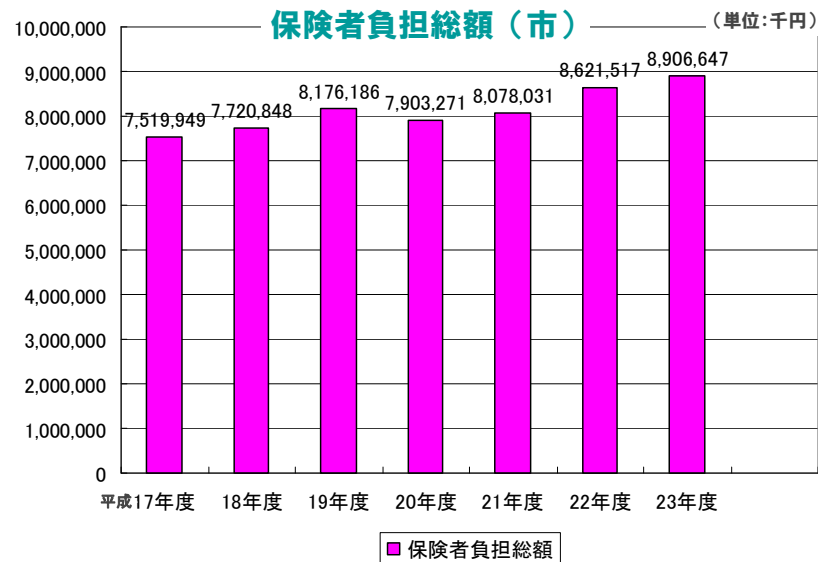
10

国民健康保険の状況（1）



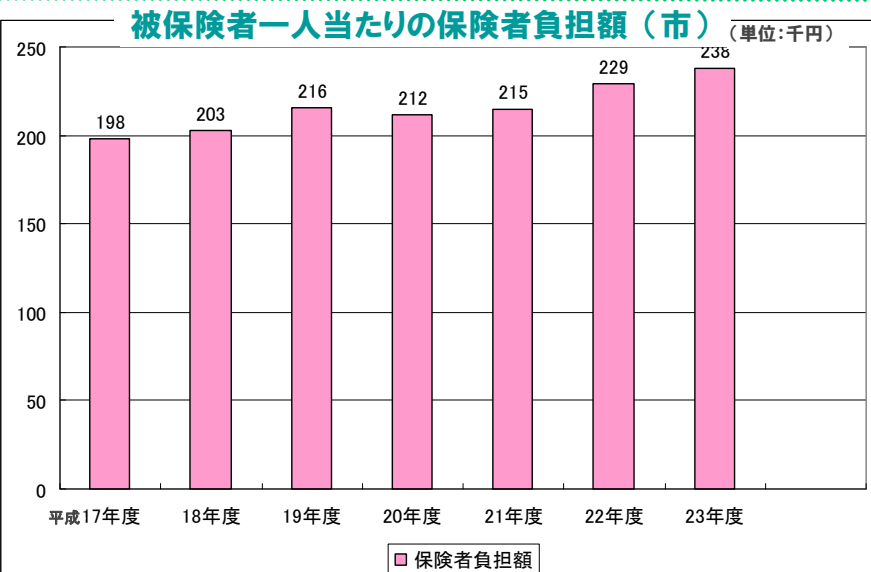
11

国民健康保険の状況 (2)



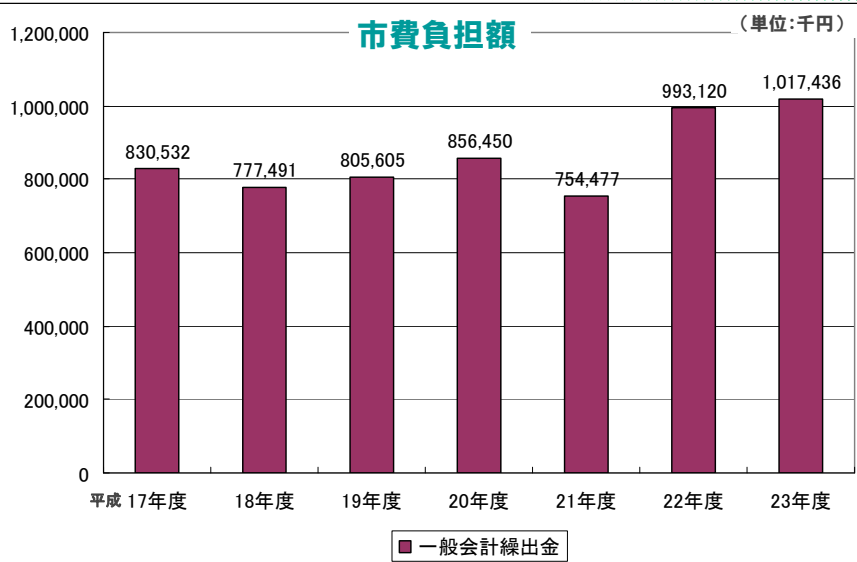
12

国民健康保険の状況 (3)



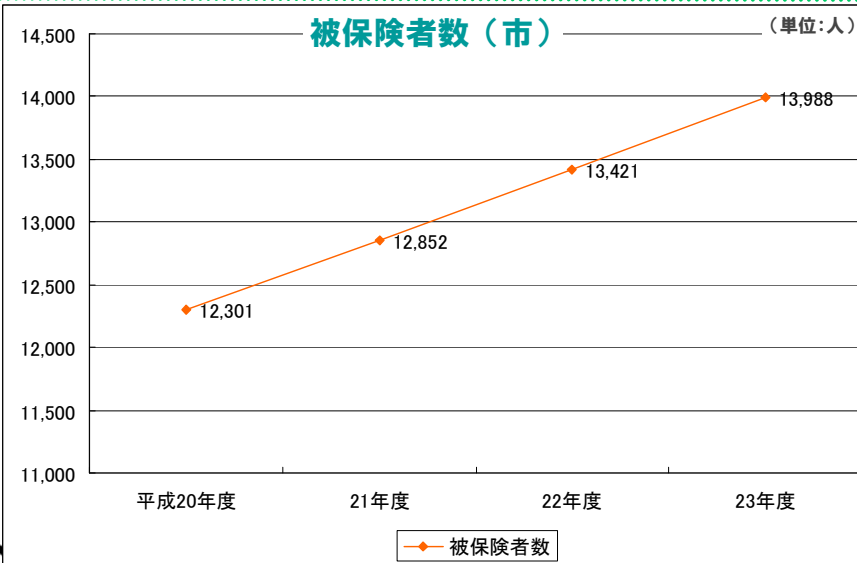
13

国民健康保険の状況（4）



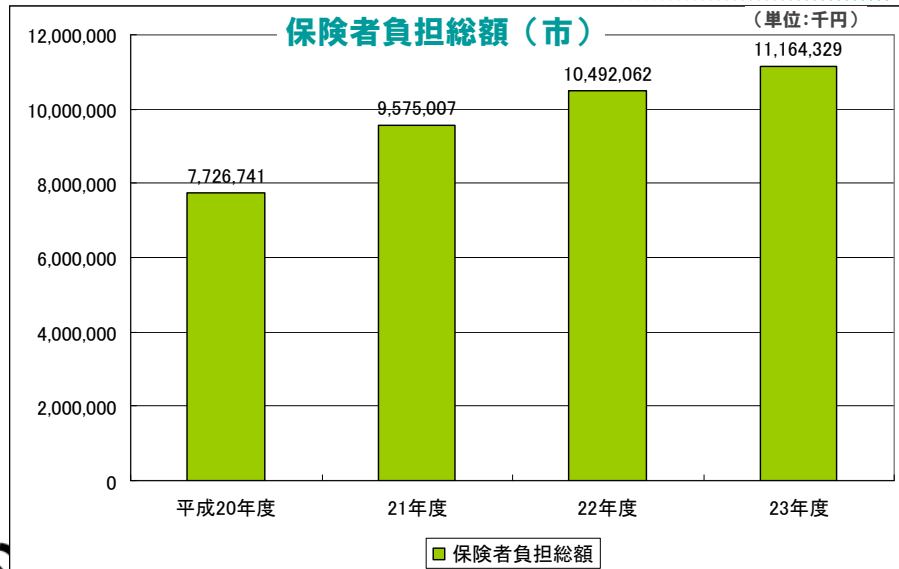
14

後期高齢者医療の状況（1）



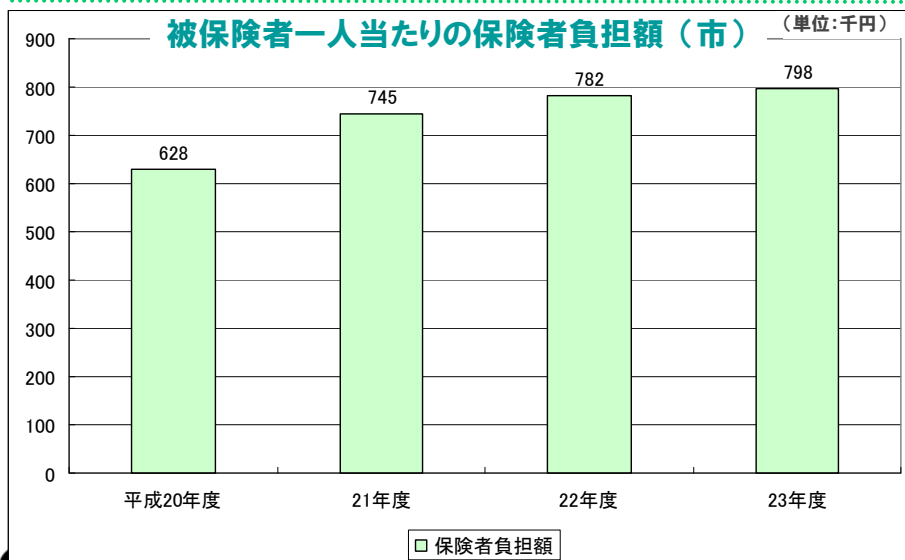
15

後期高齢者医療の状況（2）



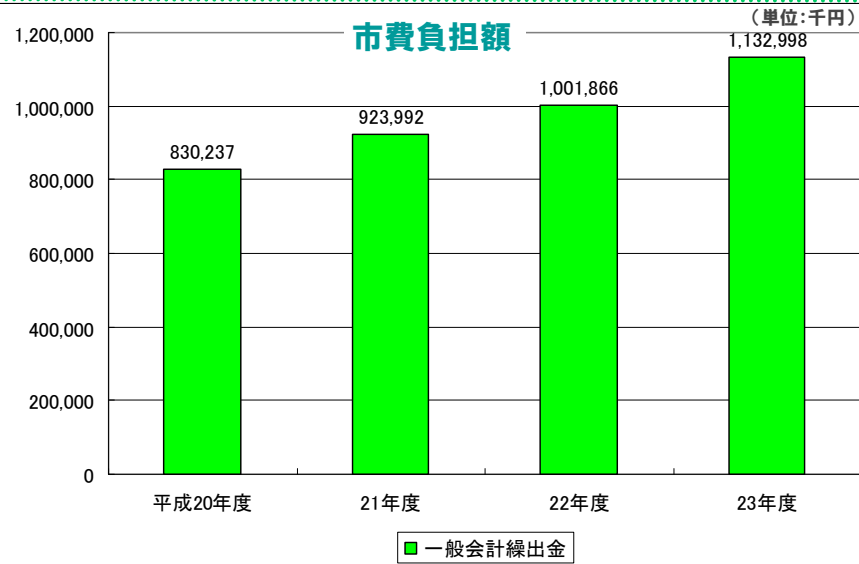
16

後期高齢者医療の状況（3）



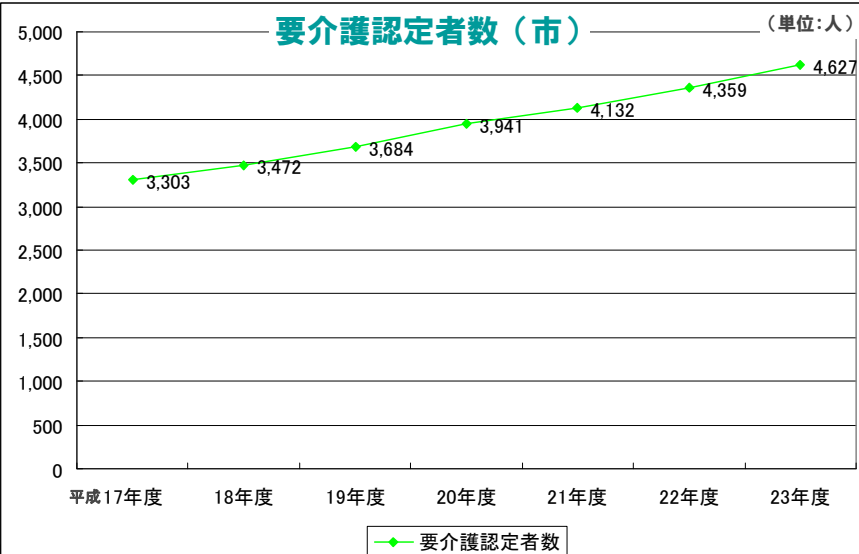
17

後期高齢者医療の状況（4）



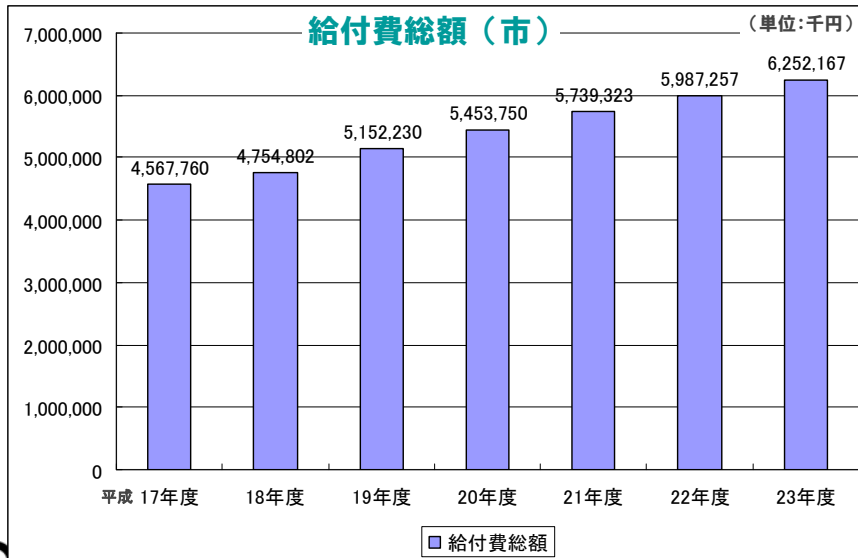
18

介護保険の状況（1）



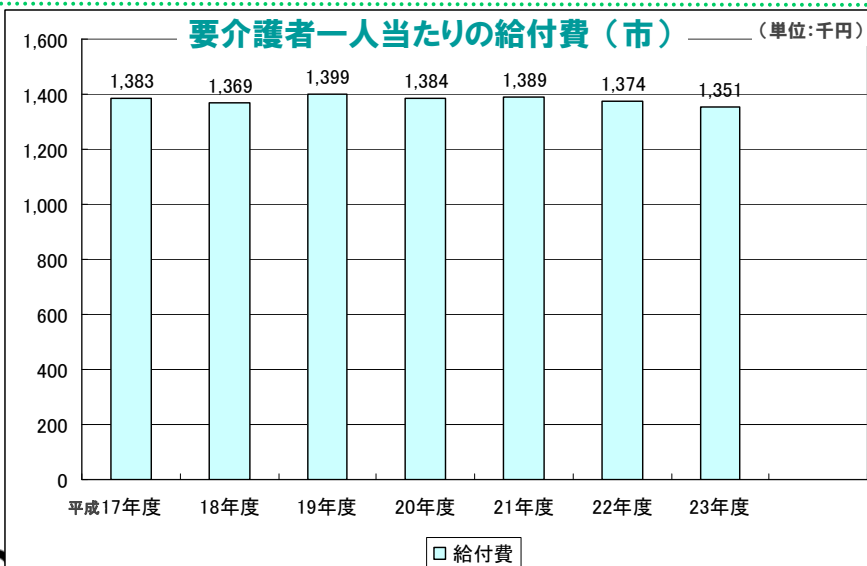
19

介護保険の状況（2）



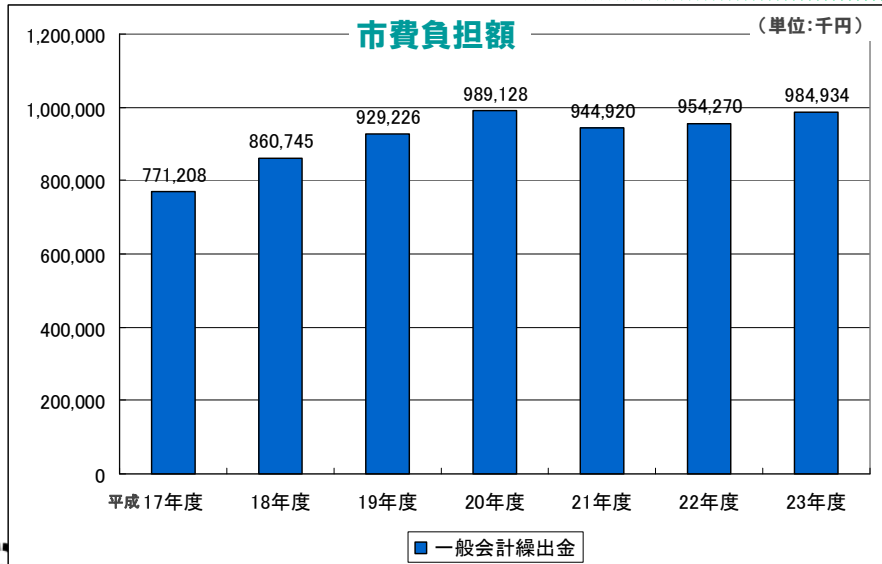
20

介護保険の状況（3）



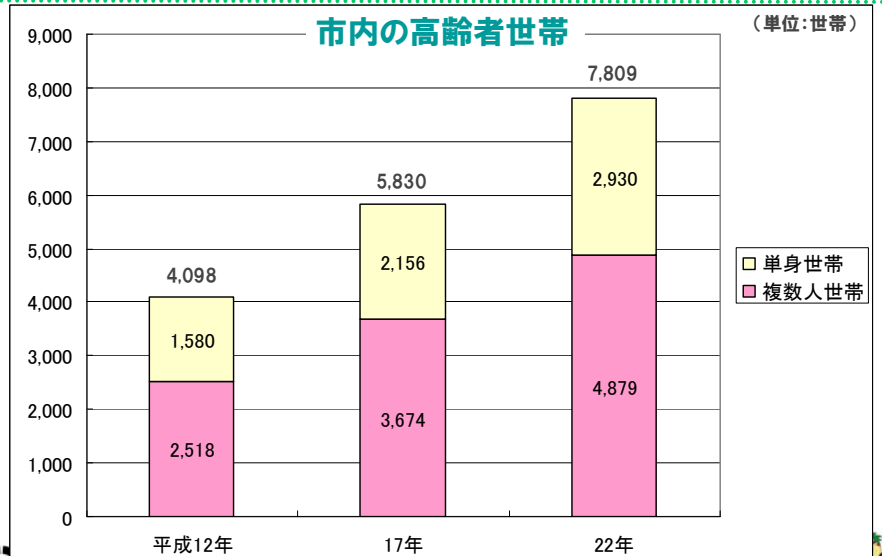
21

介護保険の状況（４）



22

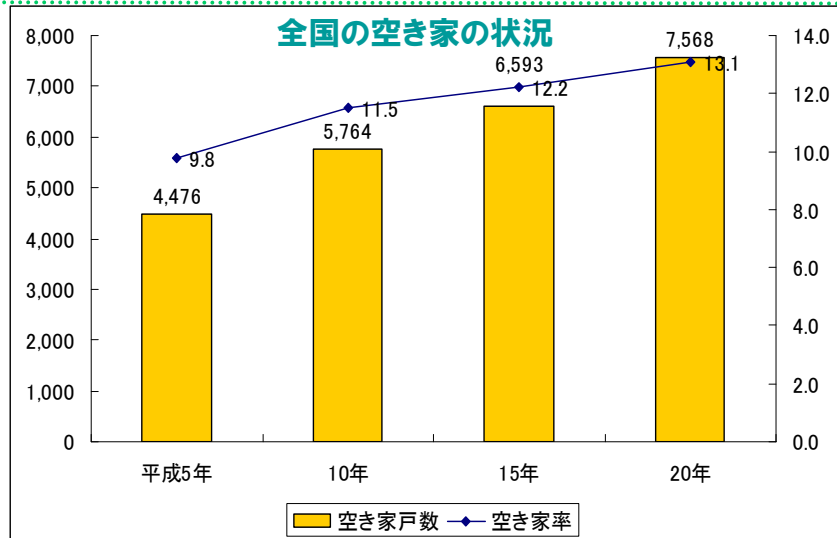
高齢者のみの世帯



23

空き家の状況 (1)

(単位:千戸、%)



※総務省統計局「住宅・土地統計調査」

24

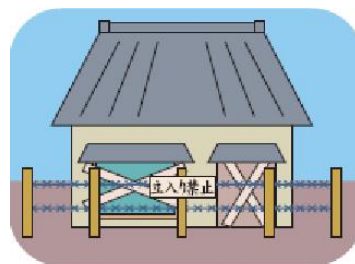
空き家の状況 (2)

市内の空き家の状況 (平成20年)

世帯数	総戸数	空き家戸数 (腐朽・破損 有り)	うち一戸建 (腐朽・破損 有り)	うち共同住宅 (腐朽・破損 有り)	空き家率
46,790世帯	52,130戸	5,630戸 (2,370戸)	1,430戸 (500戸)	4,200戸 (1,870戸)	10.8%

※1 空き家5,630戸のうち42%が腐朽・破損有りの住宅。

2 住宅・土地統計調査資料



25

改革の方向性



改革のコンセプト

社会動向の視点

- ・人口減少社会の到来と少子高齢化の進行
- ・社会保障費の増大と税財源の縮小

市民の視点

- ・「安心・安全」のまちづくり
- ・震災を契機に、地域のコミュニティ、絆の大切さを再評価。

地域特性の視点

- ・名古屋に近く、歴史と緑の豊かなまち
- ・古くから農業が盛んで、植木・苗木、ぎんなんの産地として有名。

中学校区を単位に地域の力を高め、子どもからお年寄りまでみんながいきいきと暮らせるまちづくりを目指す。

市民センター構想の発展形




改革の目玉



28

改革の目玉

- ① 子育て支援の強化
- ② こども屋内遊園地を開設
～いなっピーランド・プロジェクト～
-  ③ 小中一貫校の新設と30人学級の導入
- ④ 福祉とボランティアの拠点を整備
- ⑤ 元気な高齢者を応援～回想法の導入～
- ⑥ オリンピック選手との交流
- ⑦ 市民窓口の休日開庁



29

小中一貫校を新設

中学校区を単位に統合する学校については、
建て替えに合わせて施設一体型の**小中一貫校を新設**する。

新設校

明治小(仮称) & 明治中
千代田小 & 千代田中
祖父江小(仮称) & 祖父江中
平和小(仮称) & 平和中



30

30人学級の導入

学校の統合によって減少する教職員の一部を戻す形で、
再編対象校に限定した**全学年30人学級の導入**を県に要望して
実現を図ることで、きめ細かな指導を充実させていく。

導入対象校

稲沢西小、明治小(仮称)、千代田小、大里西小、
祖父江小(仮称)、平和小(仮称)、
明治中、千代田中、祖父江中、平和中



31

6・3制を維持した一貫教育

前期						後期		
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学級担任制						教科担当制		

・9年間の連続した学びの中で、子どもたちが確かな学力と豊かな人間性・社会性を身に付けられるようにする。

・対象となる中学校に**小中連携主幹**1名を配置し、小中教員による連携指導(**チーム・ティーチング**)や、中学校の教員による小学校での教科指導の実施を支援する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。

・児童・生徒間の交流活動や、小中学校の合同行事を積極的に展開する。



32

小中一貫校が目指すもの (1)

“子どもが子どもを教え育む学校”



小学校の体育の授業を中学生が支援



小学生にカンフー体操を教える中学生



6年生がクラブ活動を体験



児童会と生徒会と一緒に募金活動



33

小中一貫校が目指すもの（2）

“小中の教員が連携できる学校”



中学校教員による小学校での外国語授業



小学校の授業
に加わり指導
するチーフコー
ディネーター



小・中学校の教員が
授業の現場で指導
方法の改善を研究



教科連携教員による理科の実験風景

34

飛鳥学園

平成22年4月開校



4-3-2の学部編成に合わせた完全一体型施設



少人数指導の現場



メディアセンター



メディアセンターでの交流風景

平成24年4月現在
小学校 240人
中学校 106人

35

各施設の見直し案



36

小学校・ 中学校



37

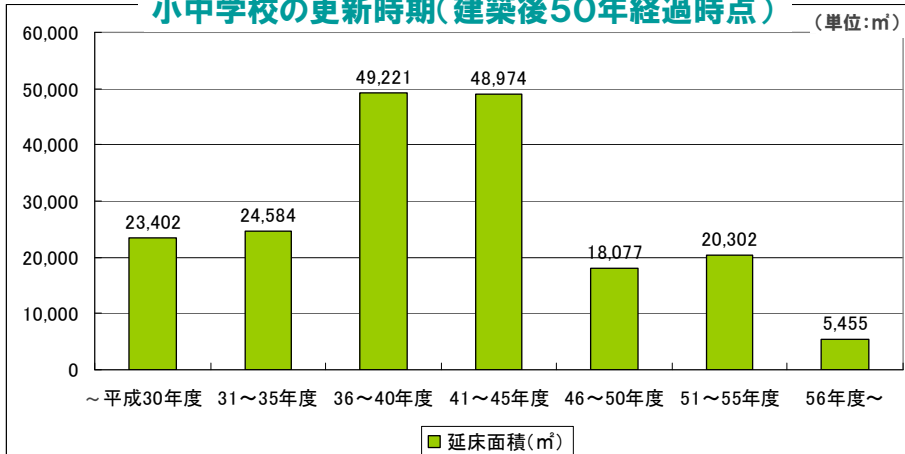
小中学校の 建て替え問題



38

学校施設の建て替え

小中学校の更新時期(建築後50年経過時点)



※190,015m²(平成13年以前に建設された小中学校の延床面積)
 × 330千円(総務省設定単価) = 627億円



39

登下校の 安全確保



40

年間を通した集団一斉下校の導入

小学校の登下校の安全確保策の一環として、
1年生から6年生までの下校時刻をそろえることで、
年間を通した集団一斉下校の導入を検討する。

下校時刻が繰り下がる低学年の児童に対しては、

- ◎読書活動の充実、
 - ◎遊びを通しての人間関係づくり、
 - ◎教科の補充・深化、
- など、各学校で特色あるカリキュラムを編成する。



41

通学路の安全対策（1）

カラー舗装



42

通学路の安全対策（2）



43

スクールガード



44

スクールバスの運行

再編の対象となる学校区に関しては、
通学距離や低学年などの一定条件に該当する児童を対象に、
スクールバスの運行を検討する。



45

小中学校の見直し案



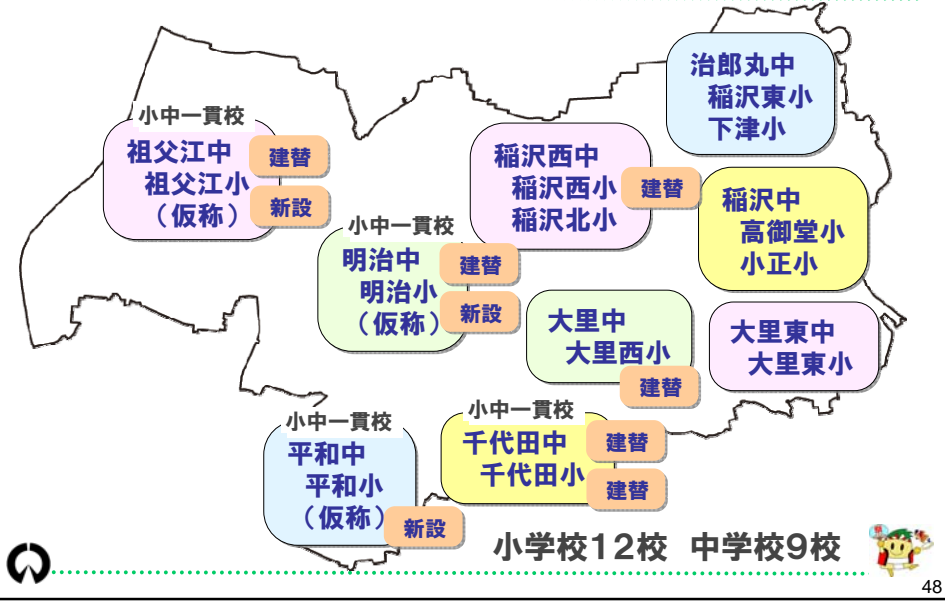
46

現行の小中学校



47

再編後の小中学校



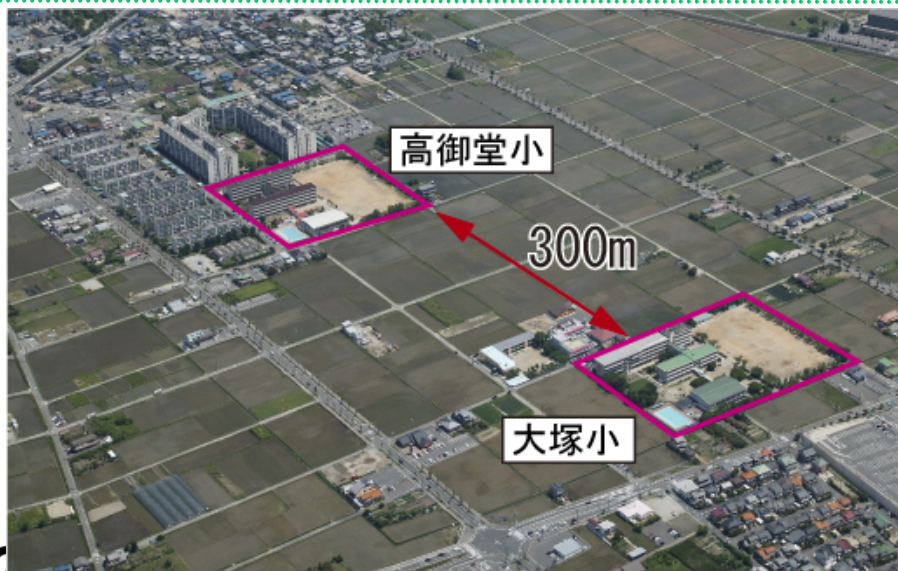
学校別の 見直し案

稲沢中学校区・
大里中学校区・
稲沢西中学校区



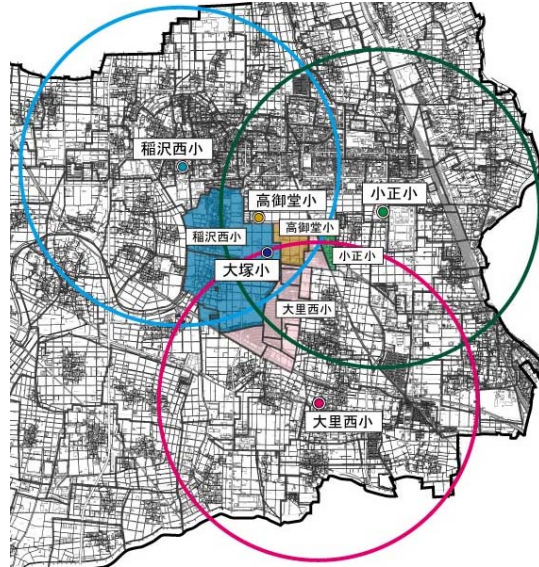
50

大塚小学校と高御堂小学校（1）



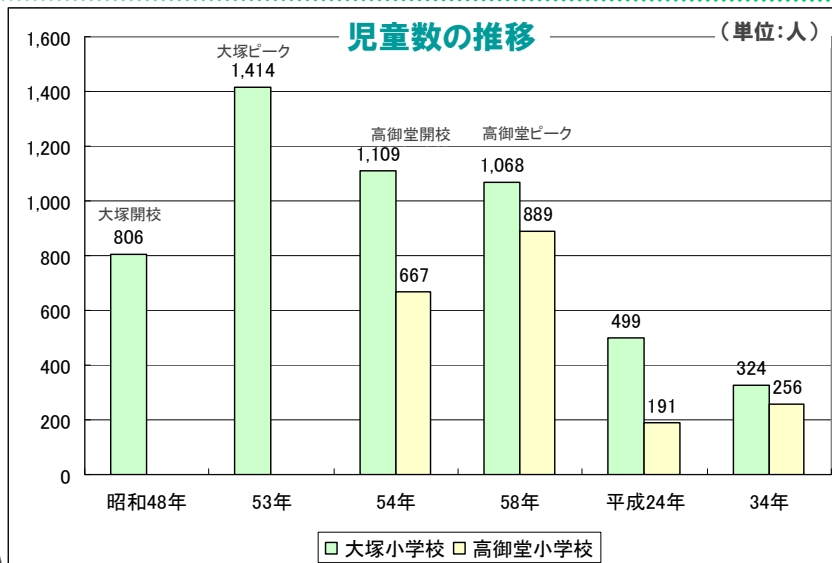
51

大塚小学校と高御堂小学校 (2)



52

大塚小学校と高御堂小学校 (3)



53

大塚小学校 (1)

現状と課題

- ・昭和48年建設。その後順次増改築。

見直し案

- ・稲沢西小及び大里西小の建て替えに合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、名鉄本線東側の稲沢中の校区を小正小、同線西側の稲沢中の校区を高御堂小、大里中の校区を大里西小、稲沢西中の校区を稲沢西小の校区に、それぞれ編入する。

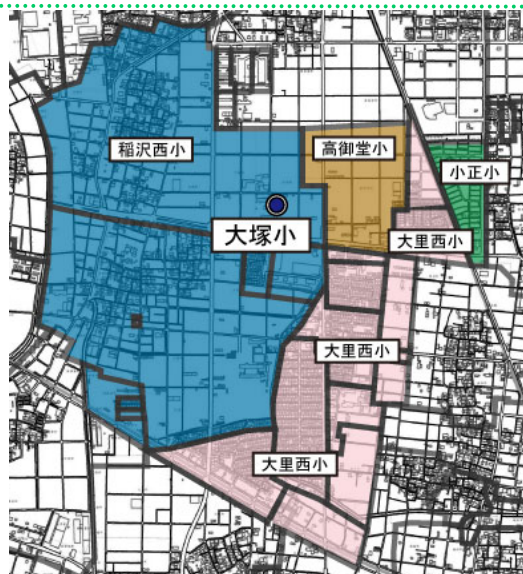


24年度(現行) 499人 → 統合後 0人 (△499人)



54

大塚小学校 (2)



55

稲沢西小学校

現状と課題

- ・昭和33年建設。その後順次増改築。
- ・平成25年度から建替工事に入る計画があるため、耐震化工事を行っていない。
- ・年間借地料 26,787千円

見直し案

- ・稲沢西小の**建て替え**に合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、稲沢西中の校区を稲沢西小の校区に編入する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



・全校児童数
 24年度(現行) 543人 → 29年度(見直し後) 694人(151人) 34年度(見直し後) 611人(△83人)



56

大里西小学校

現状と課題

- ・昭和36年建設。その後順次増改築。
- ・年間借地料 16,379千円

見直し案

- ・大里西小の**建て替え**に合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、大里中の校区を大里西小の校区に編入する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



・全校生徒数
 24年度(現行) 413人 → 29年度(見直し後) 600人(187人) 34年度(見直し後) 513人(△87人)



57

明治中学校区



58

明治中学校（1）

現状と課題

- ・昭和36年建設。その後順次増改築。
- ・年間借地料 198千円

見直し案

- ・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した「明治小学校（仮称）」と明治中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、**全学年で30人学級**を導入する。



- ・小学校の新設に伴い、国分小の校区のうち、稲沢西中の校区を明治中の校区に変更する。



59

明治中学校 (2)

見直し案

・全校生徒数
 24年度(現行) 389人 → 29年度(見直し後) 420人(31人) 34年度(見直し後) 333人(△87人)

・明治市民センター、明治公民館、明治スズラン児童センターについては、
 ①敷地がすべて借地であること、②施設が老朽化していること、
 を踏まえ、明治中の建て替えに合わせて、同中の隣接地に併設移転する。



60

清水小学校

現状と課題

・昭和41年建設。その後順次増改築。1学年のみ1クラス。
 ・年間借地料 7,686千円

見直し案

・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した「明治小学校(仮称)」と明治中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



・全校児童数
 24年度(現行) 270人 → 29年度(統合後) 662人(392人) 34年度(統合後) 593人(△69人)



61

片原一色小学校

現状と課題

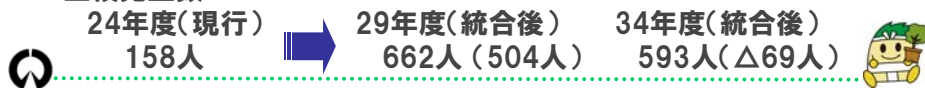
- ・昭和44年建設。その後順次増改築。
- ・24年度から全学年1クラスになっている。
- ・年間借地料 7,081千円

見直し案

- ・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した「明治小学校(仮称)」と明治中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



・全校児童数



62

国分小学校

現状と課題

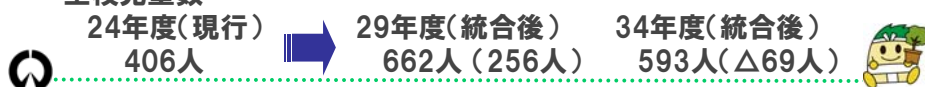
- ・昭和43年建設。その後順次増改築。
- ・年間借地料 377千円



見直し案

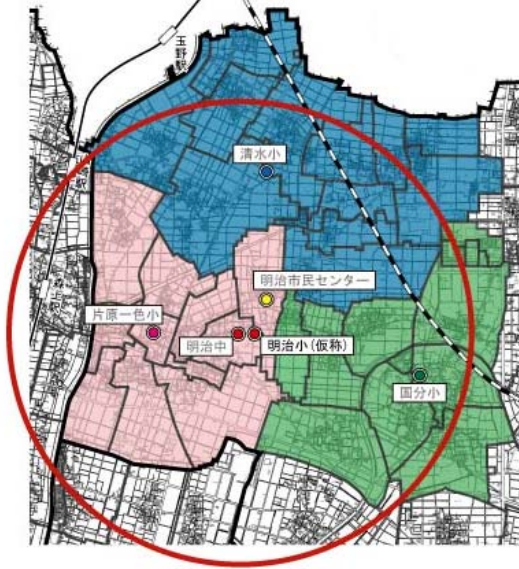
- ・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した「明治小学校(仮称)」と明治中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。
- ・小学校の新設に伴い、国分小の校区のうち、稲沢西中の校区を明治中の校区に変更する。

・全校児童数



63

明治小学校 (仮称)



64

千代田中学校区



65

千代田中学校

現状と課題

- ・昭和38年建設。その後順次増改築。
- ・学校プールが老朽化したため、隣接の市営千代田プールを使用している。

見直し案

- ・千代田小、千代田中の間の市道を廃止して、坂田小を統合した千代田小と千代田中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



- ・全校生徒数

24年度(現行)	➡	29年度	34年度
220人		228人(8人)	223人(△5人)



66

千代田小学校 (1)

現状と課題

- ・昭和35年建設。その後順次増改築。
- ・年間借地料 9,439千円

見直し案

- ・千代田小に坂田小を統合する。
- ・千代田小、千代田中の間の市道を廃止して、千代田小と千代田中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



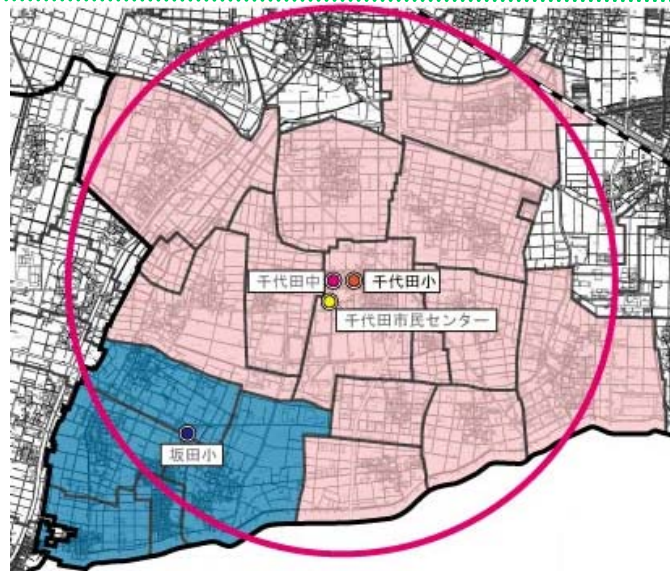
- ・全校児童数

24年度(現行)	➡	29年度(統合後)	34年度(統合後)
356人		420人(64人)	320人(△100人)



67

千代田小学校 (2)



68

坂田小学校

現状と課題

- ・昭和49年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
- ・合同の社会見学や読書郵便のやり取りなど、千代田小との交流を進めている。

見直し案

- ・千代田小に坂田小を統合する。
- ・千代田小、千代田中の間の市道を廃止して、千代田小と千代田中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



全校児童数

24年度(現行)	➡	29年度(統合後)	34年度(統合後)
103人		420人(317人)	320人(△100人)



69

祖父江中学校区



70

祖父江中学校

現状と課題

- ・昭和43年建設。その後順次増改築。



見直し案

- ・祖父江支所、消防署祖父江分署、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した「祖父江小学校(仮称)」と祖父江中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、**全学年で30人学級を導入する。**

全校生徒数

24年度(現行) 620人 → 29年度 583人(△37人) 34年度 511人(△72人)



71

祖父江小学校 (1)

現状と課題

- ・昭和38年建設。その後順次増改築。4学年が1クラス。
- ・年間借地料 468千円



見直し案

- ・祖父江支所、消防署祖父江分署、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した「祖父江小学校(仮称)」と祖父江中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。

・全校児童数

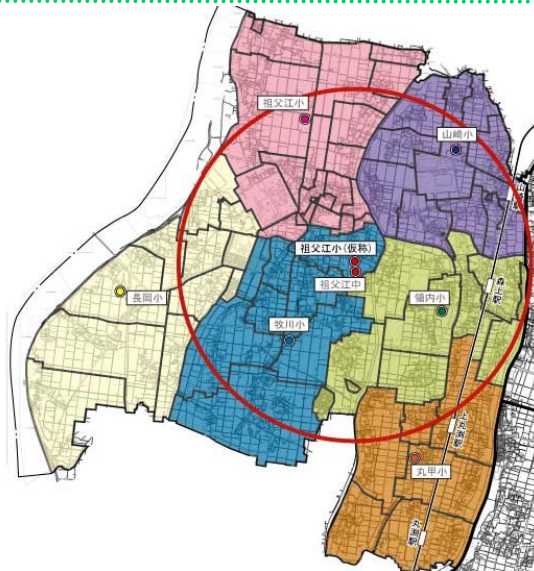
24年度(現行)	➡	29年度(見直し後)	34年度(見直し後)
206人		995人(789人)	954人(△41人)



72

祖父江小学校 (2)

見直し案



73

山崎小学校

現状と課題

- ・昭和42年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
- ・年間借地料 656千円



見直し案

- ・祖父江支所、消防署祖父江分署、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した「祖父江小学校(仮称)」と祖父江中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。

- ・全校児童数
24年度(現行) 123人 → 29年度(見直し後) 995人(872人) 34年度(見直し後) 954人(△41人)



74

領内小学校

現状と課題

- ・昭和35年建設。その後順次増改築。
- ・年間借地料 1,165千円



見直し案

- ・祖父江支所、消防署祖父江分署、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した「祖父江小学校(仮称)」と祖父江中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。

- ・全校児童数
24年度(現行) 357人 → 29年度(見直し後) 995人(638人) 34年度(見直し後) 954人(△41人)



75

丸甲小学校

現状と課題

- ・昭和53年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
- ・年間借地料 860千円

見直し案

- ・祖父江支所、消防署祖父江分署、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した「祖父江小学校(仮称)」と祖父江中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



・全校児童数			
24年度(現行)	➡	29年度(見直し後)	34年度(見直し後)
130人		995人(865人)	954人(△41人)



76

牧川小学校

現状と課題

- ・昭和48年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
- ・年間借地料 1,467千円

見直し案

- ・祖父江支所、消防署祖父江分署、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した「祖父江小学校(仮称)」と祖父江中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



・全校児童数			
24年度(現行)	➡	29年度(見直し後)	34年度(見直し後)
168人		995人(827人)	954人(△41人)



77

長岡小学校

現状と課題

- ・昭和53年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
- ・毎月1回、木曾川河川敷で体験学習を実施している。

見直し案

- ・祖父江支所、消防署祖父江分署、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した「祖父江小学校(仮称)」と祖父江中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



全校児童数

24年度(現行)	➡	29年度(見直し後)	34年度(見直し後)
148人		995人(847人)	954人(△41人)



78

平和中学校区



79

平和中学校

現状と課題

- ・平成16年に1棟を残し全面建て替え。
- ・市内の小中学校で唯一、全館に空調設備が整っている。
- ・年間借地料 13,360千円

見直し案

- ・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した「平和小学校(仮称)」と平和中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、**全学年で30人学級**を導入する。
- ・全校生徒数

24年度(現行)	➡	29年度	34年度
418人		357人(△61人)	296人(△61人)



80

法立小学校

現状と課題

- ・昭和43年建設。その後順次増改築。3学年が1クラス。
- ・年間借地料 4,827千円

見直し案

- ・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した「平和小学校(仮称)」と平和中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、**全学年で30人学級**を導入する。
- ・全校児童数

24年度(現行)	➡	29年度(統合後)	34年度(統合後)
234人		616人(382人)	527人(△89人)



81

六輪小学校

現状と課題

- ・昭和41年建設。その後順次増改築。
- ・年間借地料 10,055千円

見直し案

- ・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した「平和小学校(仮称)」と平和中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



- ・全校児童数

24年度(現行) 376人 → 29年度(統合後) 616人(240人) 34年度(統合後) 527人(△89人)



82

三宅小学校

現状と課題

- ・昭和42年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
- ・年間借地料 6,433千円

見直し案

- ・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した「平和小学校(仮称)」と平和中を合わせた施設一体型の**小中一貫校**を建設する。併せて、全学年で**30人学級**を導入する。



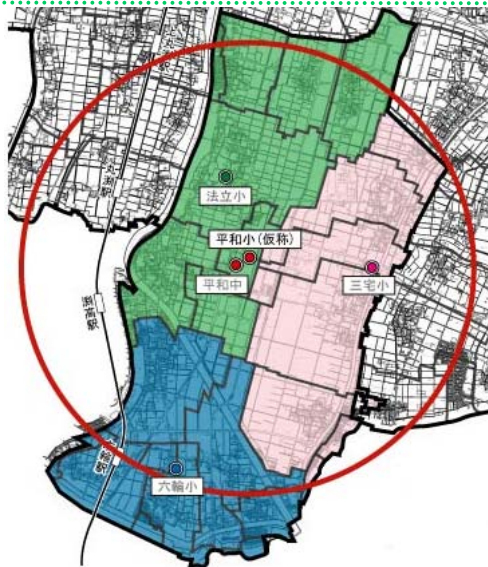
- ・全校児童数

24年度(現行) 143人 → 29年度(統合後) 616人(473人) 34年度(統合後) 527人(△89人)



83

平和小学校(仮称)



84

スポーツ施設



85

奥田公園テニスコート

現状と課題

- 平成2年建設。奥田遊水地を活用した施設。ハードコート8面。ナイター照明設備有り。民間事業者指定管理委託。
- 平日は夜間が中心で1割程度、土日は7割程度の稼働率。
- 隣接の福田川の水位が上昇すると自動アナウンスがかかり、利用中止になる。年に数回、川の増水で水に浸かる。水位が下がれば数時間で排水されるが、業者の清掃が完了するまで、3～4日はコートが利用できなくなる。
- コートの至る所にコンクリートのひび割れが生じている。
- 年間借地料 4,307千円

見直し案

- コートのひび割れを補修した上で、当分の間
存置する。



86

消防施設



87

消防本部・ 消防署



88

組織体制



89

現行の体制（1）

消防本部・消防署

- ・平成14年建設。耐震性有り。
- ・職員数は消防本部18名、消防署74名。
- ・配置車両は、指揮車1台、タンク車1台、水槽車1台、ポンプ車1台、はしご車1台、化学車1台、工作車1台、救急車2台、搬送車・運搬車2台、広報車・連絡車9台、計20台。
- ・管轄区域内人口は、24年2月現在で45,682人。



消防署稲沢東分署

- ・昭和52年建設。耐震性有り。
- ・職員数は33名。
- ・配置車両はタンク車1台、ポンプ車1台、はしご車1台、化学車1台、救急車1台、広報車1台、計6台。
- ・管轄区域内人口は、24年2月現在で49,961人。



90

現行の体制（2）

消防署祖父江分署

- ・昭和50年建設。耐震未改修。
- ・職員数は23名。
- ・配置車両はタンク車1台、ポンプ車1台、救急車1台、広報車1台、計4台。
- ・管轄区域内人口は、24年2月現在で22,110人。



消防署平和分署

- ・昭和51年建設。耐震診断値は、法の基準を満たしているものの、市の基準を若干下回っている。
- ・職員数は23名。
- ・配置車両はタンク車1台、ポンプ車1台、救急車1台、広報車1台、計4台。
- ・管轄区域内人口は、24年2月現在で18,008人。



91

類似団体との比較 (1)

【平成22年度】

団体名	人口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (㎡)	22年度 歳出総額 (百万円)	財政力 指数	職員数 (普通会計) (人)	うち消防 (人)	消防署 の体制 (人)
稲沢市	138,206	49,103	79.30	40,244	0.98	914	166	4署
瀬戸市	133,121	51,183	111.61	32,380	0.92	696	127	3署
豊川市	185,511	66,290	160.75	56,203	0.97	1,074	185	3署 4出張所
西尾市	169,190	53,727	160.34	54,020	1.01	1,235	191	5署 2出張所
小牧市	153,680	58,060	62.82	47,082	1.36	931	152	4署
東海市	109,288	44,557	43.36	44,823	1.45	779	121	1署 2出張所
類似団体平均	148,166	53,820	103.03	45,792	1.12	938	157	—
一宮市(参考)	386,132	143,562	113.91	106,822	0.84	2,211	383	4署 10出張所

92

類似団体との比較 (2)

【平成22年度】

団体名	消防署の 体制 (人)	職員数 (人)	うち 消防本部 (人)	うち 消防署 (人)	車両台数 (台)
稲沢市	4署	166	17	149	34
瀬戸市	3署	127	23	104	27
豊川市	3署 4出張所	185	38	147	22
西尾市	5署 2出張所	191	25	166	55
小牧市	4署	152	28	124	35
東海市	1署 2出張所	121	17	104	34
類似団体平均	—	157	25	132	35
一宮市(参考)	4署 10出張所	384	52	332	67

93

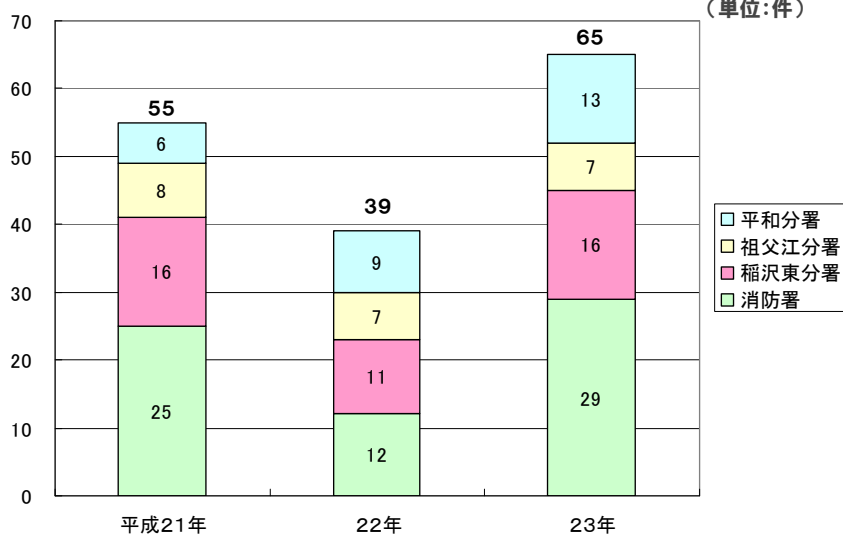
消防



94

火災発生件数

(単位:件)



95

年間出動件数

(平成23年・単位:件)

区 分	消 防 署	稲沢東分署	祖父江分署	平和分署
火 災	46	27	15	28
救 助	35	35	26	29
警 戒	64	55	43	34
調 査	6	10	0	1
救急支援	261	295	148	122
そ の 他	5	3	1	2
計	417	425	233	216



96

年間出動時間

(平成23年・単位:件、時間)

区 分	消 防 署	稲沢東分署	祖父江分署	平和分署
出 動 件 数	417	425	233	216
延べ時間数	349.0	232.0	121.2	131.8
平均出動時間	1.4	0.9	0.9	0.6
年間出動率	4.0%	2.6%	1.4%	1.5%



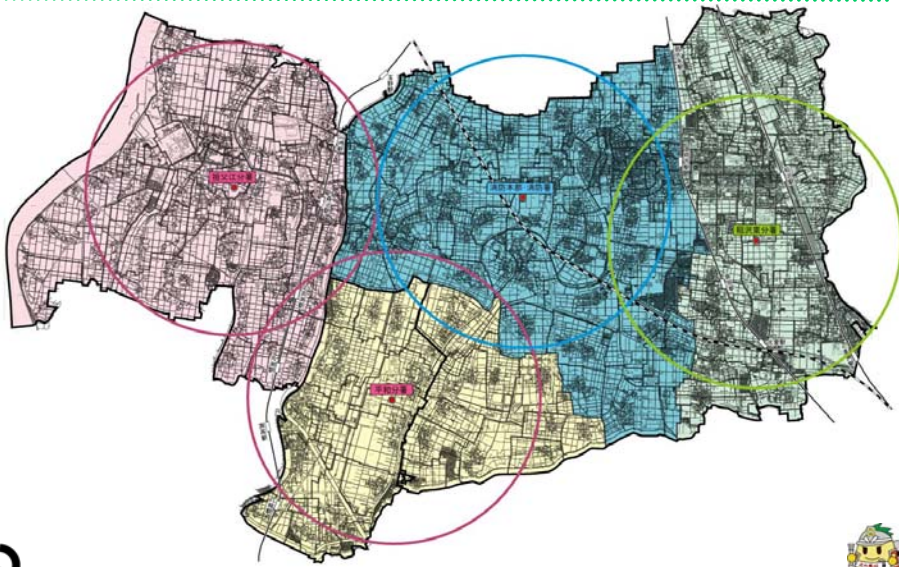
97

救急

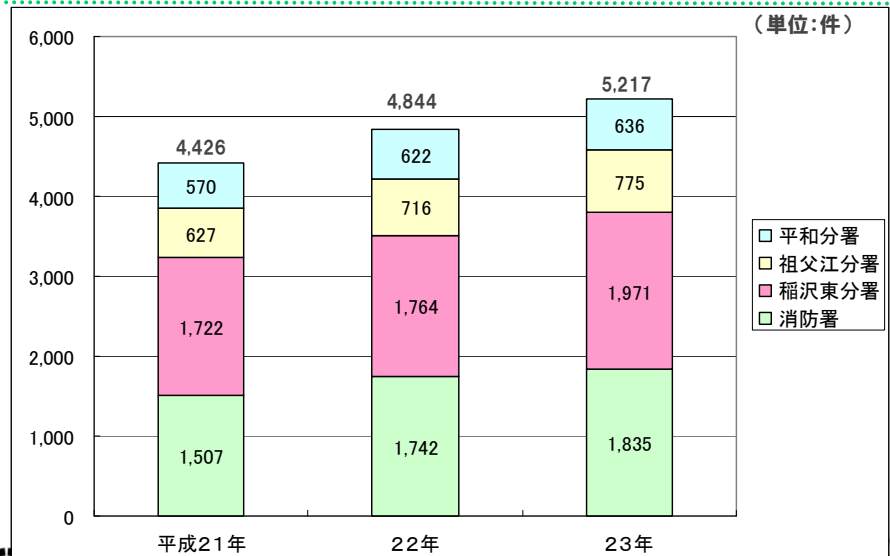


98

8分以内に現場到着する圏域



救急発生件数



100

年間出動時間

(平成23年・単位:件、時間)

区分	消防署	稲沢東分署	祖父江分署	平和分署
救急車両	2台	1台	1台	1台
管内発生件数	1,835	1,971	775	636
出動件数	2,144	1,645	733	695
延べ時間数	2,386.7	1,819.2	807.8	814.8
平均出動時間	1.1	1.1	1.1	1.2
救急車1台当たりの年間出動率	13.6%	20.8%	9.2%	9.3%

101

発生地区別の救急出動件数

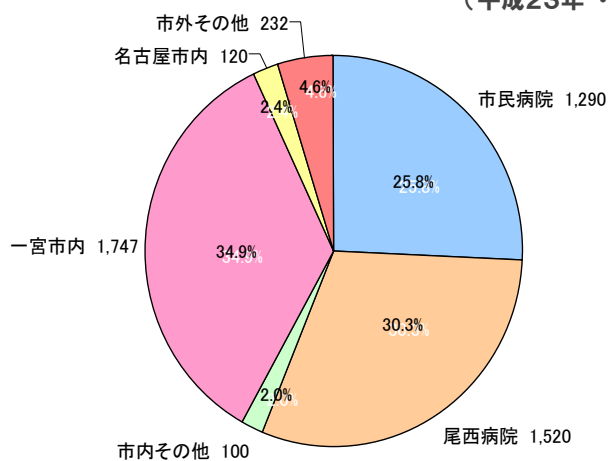
(平成23年・単位:件)

区分	消防署管内		稲沢東分署管内		祖父江分署管内		平和分署管内		出動件数計
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	
消防署	1,726	80.5%	352	16.4%	26	1.2%	40	1.9%	2,144
稲沢東分署	50	3.0%	1,588	96.5%	4	0.2%	3	0.2%	1,645
祖父江分署	18	2.5%	17	2.3%	667	91.0%	31	4.2%	733
平和分署	41	5.9%	14	2.0%	78	11.2%	562	80.9%	695
発生件数計	1,835	-	1,971	-	775	-	636	-	5,217
管内要請に対する出動率	94.1%		80.6%		86.1%		88.4%		-

102

搬送先別の救急対応件数

(平成23年・単位:件)



103

消防本部・ 消防署の 見直し案



104

消防本部・消防署の見直し案（1）

総務課・予防課の見直し

- ・消防本部総務課については、業務内容を切り分けた上で、正規職員**1人**を臨時職員に**振り替える**。
- ・同本部予防課については、さらなる業務の効率化を図り、正規職員**1人**を臨時職員に**振り替える**。

指令センターの共同設置

- ・消防用デジタル無線及び消防指令センターを一宮市消防本部と共同で設置することにより、消防本部情報指令課の職員を**4人削減**する。



105

消防本部・消防署の見直し案（2）

稲沢東分署の体制強化

- ・稲沢東分署については、
 - ①管内の救急要請の8割しか対応できていないこと、
 - ②市民病院が26年に移転新築すること、を鑑み、救急車を1台から2台に**増設**して職員を**2人増員**する。
- ・稲沢東分署の仮眠室及びトイレを改修する。



106

消防本部・消防署の見直し案（3）

平和分署の移転

- ・現行の4署体制によって、到着8分圏域が市域の7割以上をカバーしていることから、今後も4つの拠点を維持していくこととする。
ただし、管轄区域の人口比を考慮して、平和分署を消防車と救急車の乗り換え運用とし、消防車2台を1台に削減した上で、職員を**11人削減**する。
- ・平和分署については、①施設の老朽化、②施設が狭い、③耐震診断値が市の基準を若干下回っていること、などを総合的に勘案し、平和地区の別の場所に**移転**する方向で検討する。



107

消防本部・消防署の見直し案（4）

祖父江分署の移転

- ・祖父江分署については、①施設の老朽化、②施設が狭いこと、などを勘案し、祖父江地区の別の場所に**移転**する方向で検討する。
ただし、耐震診断値が法定基準を下回っていることから、緊急的に現庁舎の耐震改修を行っていく。



行革効果

- ・前述の施策をすべて実施した場合、人件費の削減により、年間**9,300万円**の行革効果を生み出すことが可能となる。



108

第7回 公共施設のあり方検討委員会 —明日のいなざわが輝くために—



平成24年11月15日
稲 沢 市



109